

日本学術会議主催学術フォーラム
乳幼児を科学的に見る：発達保育実践政策学の展開

第2部 養育者のワーク・ライフ・バランス

話題提供
保育者の感情労働とワーク・ライフ・バランス
ー他者のワーク・ライフ・バランスを支える保育者たち

藤女子大学人間生活学部保育学科
高橋 真由美

藤女子大学
FUJI WOMEN'S UNIVERSITY

感情労働とは

- ◆アメリカの社会学者であるホックシールド(A.R.Hochschild)が提唱した概念
- ◆相手に特定の精神状態を創り出すために、自己の感情を表出したり抑制したりすることによって対価を得る労働
- ◆職務にふさわしい表情・声・態度で適正な感情（感情規則）が労働場面に明示的あるいは暗黙的に定められている



保育の仕事は感情労働か？



保育の仕事における感情労働の特殊性



保育における保護者支援

◆児童福祉法（第十八条の四）

保育士とは「専門的知識及び技術をもって、児童の保育及び児童の保護者に対する保育に関する指導を行うことを業とする者をいう」

◆2008年改定 保育所保育指針

保護者支援について「**子どもの最善の利益を保障**するために、その専門性や集団保育という環境を活かした支援をすることで保護者の養育力の向上に努めること、その支援の際には保護者の状況や気持ちを受け止め、**保護者の自己決定やプライバシーを尊重**することに留意し、必要に応じて地域資源を利用し、関係機関との連携を図ること」という内容が示されている



保護者支援が明確に保育士の仕事として位置づけられる

保育：子どもの最善の利益の保障＋保護者のワーク・ライフ・バランスを支える

保育者と保護者支援

◆保育者は保護者を支援する際に何を感じているのか？

「保育所における保護者支援 －保護者支援の困難性とは－」

高橋・川田（2014）日本保育学会第67回大会発表要旨

「保護者支援における保育者の感情労働と職場環境

－保護者の安定感創出のためのストラテジーに着目して」

高橋・小川・諏訪・中坪・神谷（2012）日本保育学会第65回大会発表要旨集

上記研究のデータから見える保育者の内面とは？

保育者と保護者支援

保護者支援の困難性

「保育所における保護者支援 －保護者支援の困難性とは－」

高橋・川田（2014）日本保育学会第67回大会発表要旨集

目的：保護者支援の困難要因の特徴を明らかにする

方法：2013年9月～10月に札幌市ならびに西日本の保育所に勤務する保育士57名（公立38名・私立19名）に対する自由記述による質問紙調査

調査内容：「保護者への対応・支援をする中で、今現在、大変だと感じている事例」について、

- ①対象児の年齢と保護者の年代 ②支援の必要性を感じた理由
③支援の過程で難しさを感じた具体例に関する自由記述

分析：57名の回答から得た61事例について、③の内容を分析し、困難要因のカテゴリを作成、

各カテゴリに属する事例数の割合を求め、子どもの年齢・保育士の経験年数・保護者

保育者と保護者支援

保護者支援の困難性

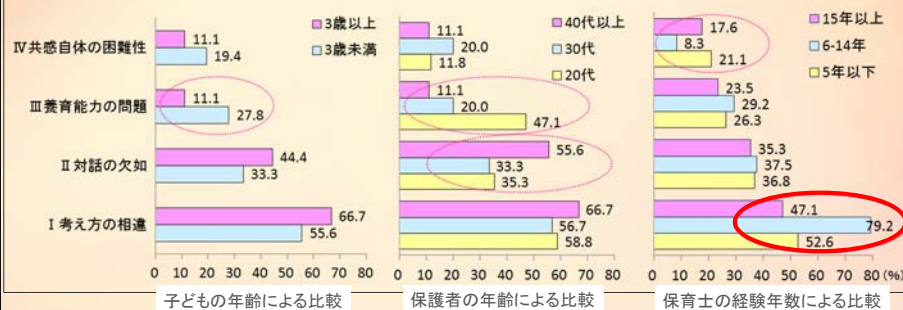
◆保育士が感じる保護者支援の困難性要因カテゴリとその割合

カテゴリ	割合(%)	小カテゴリ	割合(%)
I 考え方の相違	60.7	1 子育てに関する価値観の違い	34.4
		2 保護者に意図が伝わらない	16.4
		3 保護者に変化が見られない	14.8
		4 保護者からクレームを受ける	13.1
II 対話の欠如	36.1	1 保護者の態度がもたらす欠如	21.3
		2 対面機会の少ない	16.4
III 養育能力の問題	26.2	1 子育てに気持ちが向かない	8.2
		2 決まりを守れない	13.1
		3 問題となる背景がある	13.1
IV 共感自体の困難性	16.4	1 保護者を受け入れるむずかしさ	13.1
		2 助言するかどうかを迷う	4.9

保育者と保護者支援

保護者支援の困難性

◆属性の違いによる困難要因の特徴



保育者と保護者支援

保護者の安定性創出のための戦略

「保護者支援における保育者の感情労働と職場環境

ー 保護者の安定感創出のための戦略に着目して」

高橋・小川・諏訪・中坪・神谷（2012）日本保育学会第65回大会発表要旨集

目的：保護者の安定感創出のために保育者が行っている戦略とは何かを明らかにする

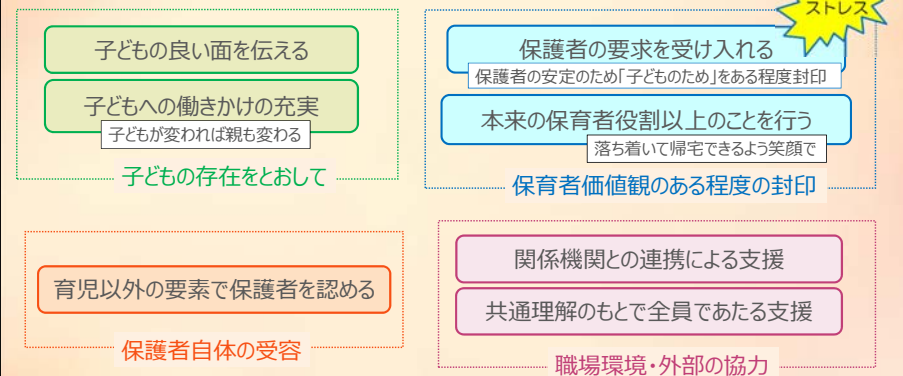
方法：H保育園において、2011年9月に保護者支援の事例について、園長、主任保育士、保育士2名に対するフォーカス・グループ・インタビュー

分析：6年間持ち上がり担任制による高学歴・若年齢の保護者への支援1事例について、保護者の安定感の創出のための戦略が語られている箇所を、SCATで分析

保育者と保護者支援

保護者の安定性創出のための戦略

◆保護者の安定感の創出のための戦略を7つ抽出



保育者と保護者支援

保護者の安定性創出のための戦略

◆保護者支援における「保育者価値観のある程度の封印」

本来の保育者役割以上のことを行う

落ち着いて帰宅できるよう笑顔で

お迎えのとときとかも、なんかもう怒ってくるような。つんとして、がちゃんみたいなの。ドアも。そうすると、やっぱりそのままじゃまずいと思うので、お母さんに、これやって欲しいって思う反面、気持ち良く帰って欲しいっていうのもあって、こっちが全部やっちゃって。でもそれは、私たちがやるべきことじゃないっていう、その難しさ。保育者の仕事ではない、親の仕事なんだけど、私たちが取ってしまって、結局。でも気分良く帰ってもらうためには、家で楽しく過ごしてもらうためには、やっぱりそうやってやってしまうという。なんかね、やっていいのかって……

保育者と保護者支援

保護者の安定性創出のための戦略

◆保護者支援における「保育者価値観のある程度の封印」

保護者の要求を受け入れる

保護者の安定のため「子どものため」をある程度封印

赤ちゃんのころは、やっぱりすごくかわいくて、学生なので夏休みがあったので、できるだけ一緒に過ごしたいので、保育園はお休みしますっていう形だったんですけど、それがだんだんと、やっぱり手に負えなくなってきたのか、毎日のように、来るようになって・・・

親の気持ちと子どもの育ちに必要なおことの兼ね合いを考えて揺れて・・・

保育者の仕事とは

保育者の仕事に潜む二重性

◆ふたたび保育者の仕事とは

子どもの成長・発達の保障
子どもの最善の利益の尊重



保護者への支援
保護者のワーク・ライフ・バランスを支える

「子どものため」が「保護者のため」にならない、「保護者のため」が「子どものため」にならないことも多い

現代において二者間のバランスをどのようにとっていくのか？ということに保育者は悩んでいる

保育者のワーク・ライフ・バランス

感情労働概念を交えて

◆保育者のワーク・ライフ・バランスの尊重とは

保育者としての専門性を向上させ、保育者として成長していくことが保障される

保育者個々の生活の充実が保障される

両方が実現されること

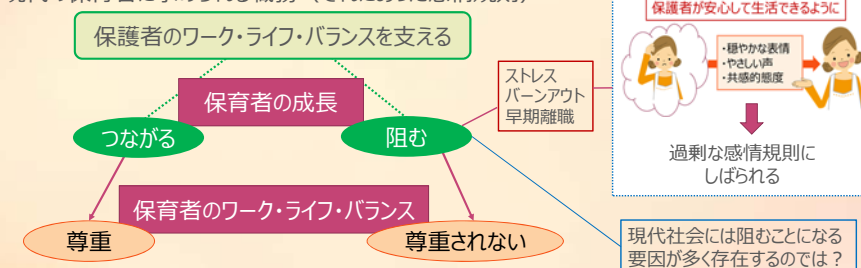
保育者のワーク・ライフ・バランス

感情労働概念を交えて

◆保育者のワーク・ライフ・バランスの尊重に潜む難しさとは

感情労働 → 職務にふさわしい表情・声・態度で適正な感情（感情規則）が労働場面に明示的・暗黙的に定められている

現代の保育者に求められる職務（それにあった感情規則）



おわりに

- ◆仕事の対象者が「子ども」と「保護者」であることから「子ども達が安心して毎日を過ごし自己実現していく」「保護者が安心して仕事をし自己実現していく」（相手に特定の精神状態を創り出す）ために、自己の感情を表出したり抑制したりしながら保育にあたっている
- ◆このバランスのとり方に悩みながら保育者たちは保育にあたっている
- ◆この悩みが過剰なものになった場合「保育者のワーク・ライフ・バランス」は保障されなくなってしまうのではないか
- ◆以上のように保育者は「他者のワーク・ライフ・バランスを支えながら自己のワーク・ライフ・バランスを実現させるべく仕事をしている」ことや「保育の仕事に感情労働の概念をあてはめる」と保育という仕事の難しさや複雑さを違った角度からとらえることができるのではないか？